

令和 5 年度

事業者番号

0052

事業所番号

005201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	志木地区衛生組合 富士見環境センター	
事業所所在地	市区町村	富士見市
	字・地番	大字勝瀬480番地
産業分類名(中分類)	88 廃棄物処理業	
分類番号(中分類)	88	
事業活動の概要	事業内容	主な業務：一般廃棄物の中間処理 敷地面積：20,841.75㎡ 建築延面積：14,879.76㎡ ごみ焼却炉：180t/24H(90t×2期)

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量3,739t-CO ₂ に対して、年平均20%、748t-CO ₂ を削減目標とする。			
	その他ガス	基準排出量16,900t-CO ₂ に対して、年平均3%、510t-CO ₂ を削減目標とする。			
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	14,956	t-CO ₂	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	3,739	t-CO ₂		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,978	1,314	1,123		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計画期間					
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
エネルギー起源 CO ₂	3,925	2,606	2,249			
前年度比 (%)	—	-33.6	-13.7			
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂	20,692	14,407	11,232		
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	24,617	17,013	13,481			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.1321	0.1284	0.1144		
前年度比 (%)	—	-2.8	-10.9		
活動規模の指標	単位				
可燃ごみの焼却量	t/年	29,713.00	20,294.00	19,651.00	

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが運転日数の減少により使用電力が減少したため排出量が減少した。 (H31年度 3,944t-CO2/年)
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが基幹的設備改良工事で炉を止めていたため排出量が減少した。(R2年度 3,925t-CO2/年)
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	前年度に引き続き基幹的設備改良工事で炉を止めており、また、運転日数が減少したため排出量が減少した。(R3年度 2,606t-CO2/年)。 尚、設備の減少として焼却施設で使用するコンプレッサーを8台から5台に集約した。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	3,739	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,739	3,739	3,739	3,739	3,739	18,695
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ($C = \sum A-D$)						14,956
	排出削減目標量 ($D = \sum (A \times B)$)						3,739
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	3,925	2,606	2,249			8,780
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	-4.97%	30.30%	39.85%			—
	排出削減量 ($G = A - E$)	-186	1,133	1,490			2,437
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	既存プラントの設備等の更新時期には、モーター、空調機器、照明機器等を省エネ型を採用する。		R4	
2	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ごみのかく拌作業を重視し、効率の良い運転に努める。		R4	
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	中央制御盤(DCS)による燃料制御(第3計画期間も継続)		R4	
4	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	中央制御室のボイラー監視画面により制御(第3計画期間も継続)		R4	
5	320300		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	日常の機器点検の実施(第3計画期間も継続)		R4	
6	320400		熱交換器等 32_廃熱の回収利用に関する措置	定期点検、オーバーホールの実施(第3計画期間も継続)		R4	
7	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機器保守点検の実施(第3計画期間も継続)		R4	
8	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	日常の機器点検の実施(第3計画期間も継続)		R4	
9	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	日常の機器点検の実施(第3計画期間も継続)		R4	
10	490200		その他 49_その他の削減対策	搬入されたごみの中から再生可能なものを回収し、破碎処理や焼却量の削減を行う。(第3計画期間も継続)		R4	
11	490200		その他 49_その他の削減対策	事業系可燃ごみ収集車両のごみ質検査の実施回数を増やし、再資源可能な廃棄物が混入していないか検査し、不適切な場合には改善計画の提出や受入停止とする。		R4	
12	490200		その他 49_その他の削減対策	その他のガス削減の実施。削減達成が困難な場合、その他のガスの削減量の充当や排出量取引を活用し目標達成に努めます。		R4	
13							
14							
15							